

凌和電子株式会社

環境・安全報告書

Environmental And Safety Report

2015

CONTENTS

—目次—

1. 編集方針／報告対象範囲	1
2. トップメッセージ	2
3. 基本理念	3

Environmental

4. 環境マネジメントシステム	4
5. 2014年度環境目標及び活動実績	5
6. 環境配慮型製品の提供	6
7. 地球温暖化ガスの排出削減 地球温暖化ガスの排出削減推移、 個別のエネルギー使用の内訳	7
8. その他の環境負荷低減活動 省資源活動、廃棄物の排出削減	8
9. 環境教育	9
10. 環境監査	10
11. 環境リスクマネジメント	11
12. 環境コミュニケーション	12
13. 地域貢献・工場独自の活動	13

Safety

14. 安全衛生管理	15
15. 会社概要	17
16. 環境負荷マスマランス	18

編集方針

凌和電子(株)は、環境マネジメントシステム(EMS)を導入した2006年以來、当社の環境活動をステークホルダーの皆様にご紹介する目的で毎年環境報告書を発行して参りました。今回は10年目となり、環境目標に掲げた活動や安全衛生活動、また社会貢献活動についても併せて紹介しています。

又、内容は、中期計画に基づき当社の重点目標とした「環境配慮型製品の提供」及び「地球温暖化ガスの削減」等の活動と併せ、地域社会との共生として社会貢献活動や行政施策への関わりも含めてご紹介しております。

本報告書は、環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」を参考としています。

報告対象範囲

●報告対象期間
2014年7月1日～2015年6月30日
(2014年度)

●報告対象
凌和電子株式会社
〔 本社、本社工場、元町工場、
山形工場、一関システムセンター 〕



当社は「地球環境の保護・保全」を重要な経営課題の一つと位置づけ、常に環境を意識したものづくりとサービスの提供を行うことで、環境にやさしい環境と調和が取れた企業活動を継続・推進していきます。

2015年9月
代表取締役社長

安藤 仁司

環境・安全報告書2015年版を発行するにあたり一言ご挨拶申し上げます。

当社は、「計測」と「制御」のプロフェッショナル集団として、創業以来40余年にわたり研究開発を続けてきました。社員一人ひとりが培ってきた技術と経験、そして独創的な個性を生かし、お客様の“声”にオーダーメイドで対応させていただいております。当社の企業理念や社是である「創造と奉仕の精神」は私どもで取り組める分野から何らかの形で「社会に貢献したい」という思いから始まり、今日のCSR活動へと継承されております。

持続可能な社会づくりの1つとして、環境への取り組みは必要不可欠なものとなっております。当社ではISO14001を認証取得しており、「環境配慮型製品の提供」、「地球温暖化ガス排出量の排出削減」、「社会貢献活動」等の目標を立て取り組んでおります。

また、新事業として省エネルギーや再生可能エネルギーの分野への挑戦もスタートさせております。

環境に“配慮”するだけでなく、“寄与”するものづくりを目指し、より一層の努力を重ねて参ります。

安全衛生分野においては、昨年7月より事業継続計画(BCP)を策定し運用を開始しております。東日本大震災の発生から4年半、その間には地震だけでなく台風や火山の噴火等、様々な災害が発生しております。被災された皆さまには、心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。当社も被災地の地元企業として災害の経験を教訓とした危機管理に努め、復興へ向けて共に歩んでまいります。

本報告書は当社の地球環境保全への取り組みや、2014年度の活動実績をまとめたものです。本報告書を通じて、ステークホルダーの皆様にご覧いただき、ご意見・ご感想など賜れば幸いに存じます。これからも持続可能な社会の実現にむけて努力してまいります。

■ 基本理念

当社は、創業以来「創造と奉仕の精神」を企業理念に掲げ、日々の研鑽に努めることによって社会に貢献することをお約束しています。これに基づき経営品質方針及び環境方針を定め、具体的活動に結びつけています。なお、2012年7月に新たな中期経営方針を定め、より明確な目標を掲げています。

企業理念

凌和電子株式会社は
「創造と奉仕の精神」をモットーに
日々、技術の研鑽に努め
より良い技術を創造して市場に提案しつづけることで
社会に奉仕します。

2009年1月1日
凌和電子株式会社
社長 安藤仁司

経営品質方針

基本理念

凌和電子株式会社は、企業理念を経営のよりどころとし、常に地域社会への貢献と顧客満足の追求を第一に、新しい時代に即した健全な企業活動(経営)を推進していきます。

行動指針

凌和電子株式会社は、基本理念のもと、以下の行動指針を定め展開していきます。

- ・規律ある社風のもと、優れた人材を育成し、着実な発展を遂げる組織を作ります。
- ・新たな知識や技術を積極的に取り入れ、顧客ニーズを捉えた満足度の高い製品、サービスを提供し続けます。
- ・改善の眼と挑戦する気概を忘れず、日々責任ある確かな業務と安全で効率よい生産活動に努めます。
- ・当社に関わるすべての人々と和を保ち信頼を重んじ、良好な関係を築きます。
- ・顧客要求事項、法令などに適合する製品提供のため品質マネジメントシステムを継続的に見直し、経営の体質強化を図ります。

環境方針

基本理念

凌和電子株式会社は、「地球環境の保護・保全」を重要な経営課題の一つと位置づけ、常に環境を意識したものづくりとサービスの提供を行うことで、環境にやさしい、環境と調和がとれた企業活動を継続・推進していきます。

行動指針

凌和電子株式会社は、企業活動の主体である「計測」と「制御」を特徴とする機械器具の開発、設計、製造、販売を通じて、以下の行動指針に基づき環境管理活動を推進し、地球環境との調和を目指します。

1. 製品の開発、設計、製造、販売、廃棄までの各領域において、省エネルギー、省資源、廃棄物削減等により環境負荷の低減を進めると共に、環境にやさしいグリーン調達並びに環境に配慮した製品・サービスの提供に努めます。
2. 継続的に環境マネジメントシステムの改善を行い、環境汚染の予防に努めます。
3. 当社の環境側面に関して、環境に関連する法令、条例及び当社が同意したその他の要求事項を遵守します。
4. 本方針に基づく環境管理活動を展開するにあたり、環境目的、環境目標を設定し、計画に沿った活動を展開し、併せて定期的な見直しを行います。
5. 本方針を、当社で働く人はもとより当社の企業活動に協力している方すべてに周知するとともに、社会の方々にも開示します。

中期経営方針

スローガン

Mind to the **V**
～価値にこだわれ！～
(勝ち)

厳しい経営環境が続く中 競争に勝ち抜き企業価値を高め 社業発展の道を歩んで行こう

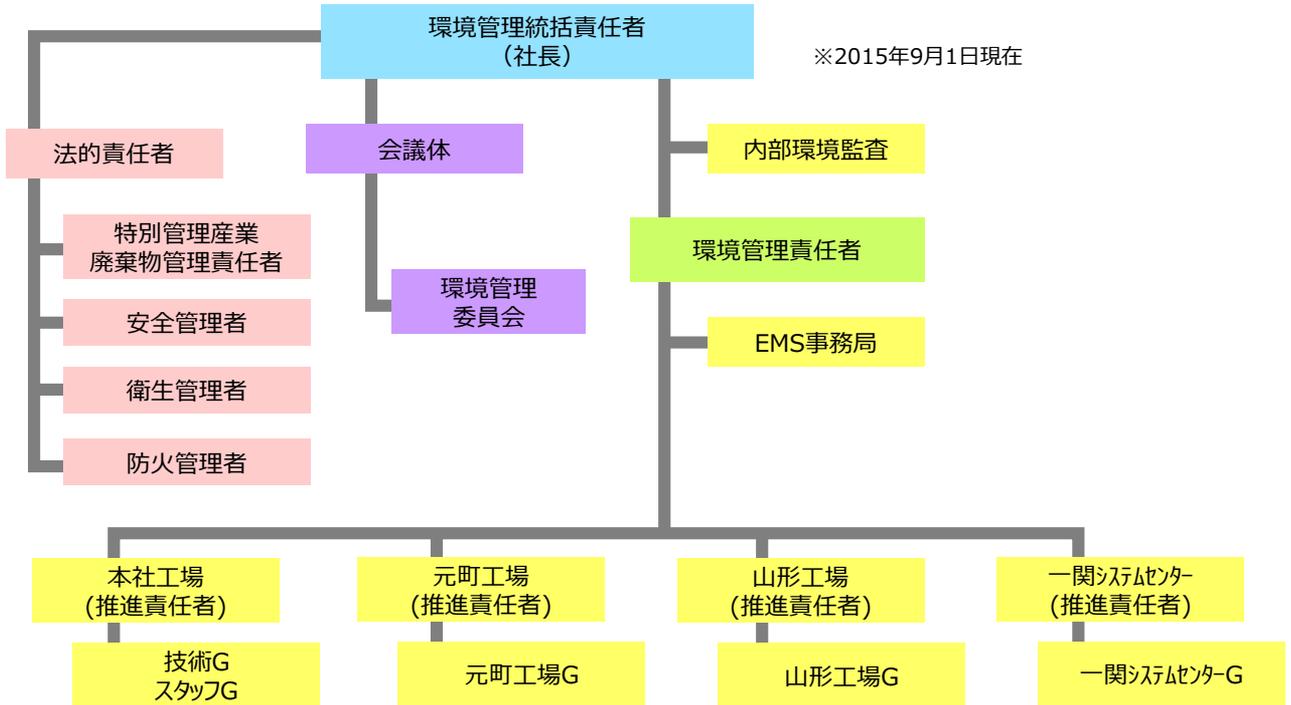
- ◇3事業(充放電システム、画像処理、通信システム)の事業化確立
- ◇新規分野への営業活動の推進
- ◇海外市場への積極的アプローチ
- ◇3事業(充放電システム、画像処理、通信システム)関連技術の深化
- ◇磁気応用計測技術の展開と研鑽
- ◇環境に配慮した製品開発・設計業務
- ◇確固たる製品品質を担保するプロセス管理の徹底
- ◇付加価値生産性の更なる向上
- ◇能力開発のためのチャレンジ推進
- ◇コンプライアンス遵守に基づく社内諸規則の見直し
- ◇経営指標の予測管理
- ◇業務の効率化とスピードアップ

4

環境マネジメントシステム

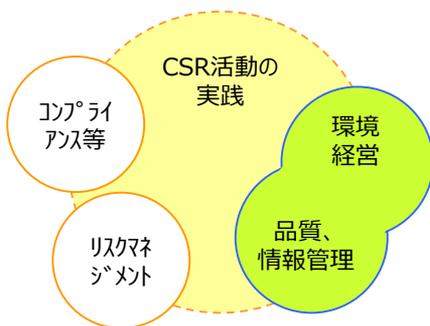
当社の環境管理体制は、2009年1月から社長が環境管理統括責任者となり、活動を牽引しています。2013年度からは一関システムセンターを編入し、4サイトでの管理体制となりました。

■ 環境管理体制



■ 中期計画の基本的な考え

当社では環境経営だけでなく、コンプライアンス、品質、情報管理、リスクマネジメント等を包含した【CSR活動】への発展へ向け取り組んでいます。



■ ISO14001認証継続

2014年10月に更新審査を受け、認証継続となりました。

適用範囲：
本社、本社工場、元町工場、山形工場、一関SC
認証登録機関：
Bureau Veritas Japan.co.,Ltd.
認証登録番号：
3280374



2014年度環境目標及び環境実績

当社は、中期計画に基づき環境マネジメントプログラムを策定し、2014年度の活動を推進してきました。これまでの活動の中で定着した項目は維持目標とし、重点目標を絞り込むことでメリハリをつけています。

その中でも、ものづくりの中で取り組むべき「環境配慮型製品の提供」は、重要なテーマであると捉えています。その他各工場が主体となり、それぞれの工場に合った業務改善を図る「工場独自の活動」にも力を入れ展開することで、省エネ活動のみではなく、広い視野で環境活動を推進しています。

■ 2014年度活動実績(報告範囲：本社、本社工場、元町工場、山形工場、一関SC)

2014年度は全社目標として改善目標2項目、維持目標5項目を掲げました。

結果として各工場とも全項目達成し、全社としても同様となりました。ただし人数原単位で見た場合、全社的に増えている項目がありますが、基準年に比べ従業員数が減少していることが要因です。

評価基準

◎：中期計画をクリア ○：計画対比100%以上達成 △：95%以上達成 ×：95%未満

実績算出

実績値(%)：2014年度計画対比/()は同原単位比(人員ベース)

No.	項目	全社目的・目標		全社活動結果		関連ページ
		中期計画 2016年度	年度計画 2014年度	実績 (計画対比)	評価	
1	環境配慮型製品の提供	全製品環境 配慮型化の推進	新規製品75%以上 90%以上 環境配慮型製品 登録50%以上	75%以上100% 登録64%	○	P.6
2	地球温暖化ガスの排出削減	2012年度実績より 4%以上削減	2012年度実績見込 より2%以上削減	△12.4% 〔△6.8%〕	◎	P.7
3	廃棄物の排出削減 (一般廃棄物)	2013年度目標 維持継続	1.2kg/人・月以下	△16.7% 〔+3.4%〕	◎	P.8
	廃棄物の排出削減 (産業廃棄物)	ゼロエミッション 維持継続	再資源化率95%	全工場：100%	◎	P.8
4	ワイプ用品のグリーン調達(調達率)	100%継続	100%継続	100%	◎	—
5	紙資源の削減(購入量)	2013年度目標 維持継続	1.1kg/人・月以下	△18.5% 〔+11.2%〕	◎	P.8
	節水活動の推進(水使用量)	2013年度目標 維持継続	0.6m ³ /人・月以下	△15.9% 〔+11.1%〕	◎	P.8
6	環境リスクの低減	環境コンプライアンスの 拡大強化	緊急事態対応訓練の 実施	各工場訓練実施	◎	P.11
7	環境コミュニケーション	環境安全 報告書発行	環境安全報告書発行 環境ニュース発行	環境安全報告書発行 環境ニュース 12回発行	◎	P.12
		エコ生活推進	情報提供 (原則隔月)	エコ生活情報 6回発行	◎	P.12
		地域・行政への 協力	地域・行政への 協力3件以上	・Fun to Share参加 登録 ・カーシェア、ウォーク・バイ 運動参加 ・エコドライバー賛同 ・仙台市まち美化 サポーター登録・実施 ・環境配慮型事業所 認定・更新	◎	P.12
		工場独自活動の強化 (4件以上/工場)	工場独自活動の強化 (3件以上/工場)	全工場実施	○	P.13～

※No.1、2は改善目標 No.3、4、5、6、7は維持目標

維持目標の管理は管理値を基準として5%増までは管理内とする

※工場独自の活動は改善目標とし、13頁以降にご紹介しています

6

環境配慮型製品の提供

当社の環境目標の中でも特に重要と位置づけ、取り組んでいるテーマの一つです。環境配慮は多くのお客様からのニーズがあり、製品のライフサイクルを考慮した設計・製作への取り組みは必然となってきています。当社では新規製品のアセスメント評価は全て行い、全製品の環境配慮型化を目指し取り組みを進めています。2014年度は環境配慮型製品の登録件数は前年度に比べて38%増加しました。一品一様の受注生産の中で、お客様と共に環境に寄与するものづくりを目指してまいります。

■ 環境配慮型製品事例

画像検査装置

RoHS指令対応にて設計製作
回収と運搬の容易化(キャスター付き)



画像検査及び良品、不良品の選別を行う製品

カートリッジ組立機

軽量化(ベース面積：従来品の30%程度)
通常工具にて分解可能



カートリッジの組立、検査、動作検査を行う製品



エコプロダクツ展への参加

当社は、2014年12月11日～13日に東京ビッグサイトで開催された日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2014」に出展しました。当展示会には当社で開発した「リチウムイオン電池充放電検査装置」や「静電気検出装置」を展示いたしました。

リチウムイオン電池充放電検査装置

リチウムイオン電池の出荷時に必要な検査を、高効率で行う装置。



静電気検出装置

プラスチック製品の検査において、静電気を検出し除電する装置。



リチウムイオン電池充放電検査装置 ↑
静電気検出装置 →



VOICE

● 環境に寄与する製品の開発へ

震災以降、省エネルギーや再生可能エネルギーの分野に高い関心が持たれるようになりました。私自身も身を持って電気の大切さは体験しています。新事業推進グループでは被災地への貢献も視野に入れ、この分野で業界トップクラスの製品を目指し、開発を進めています。



新事業推進グループ
● 高橋 和雄 ●

→ 当社ブースでの様子



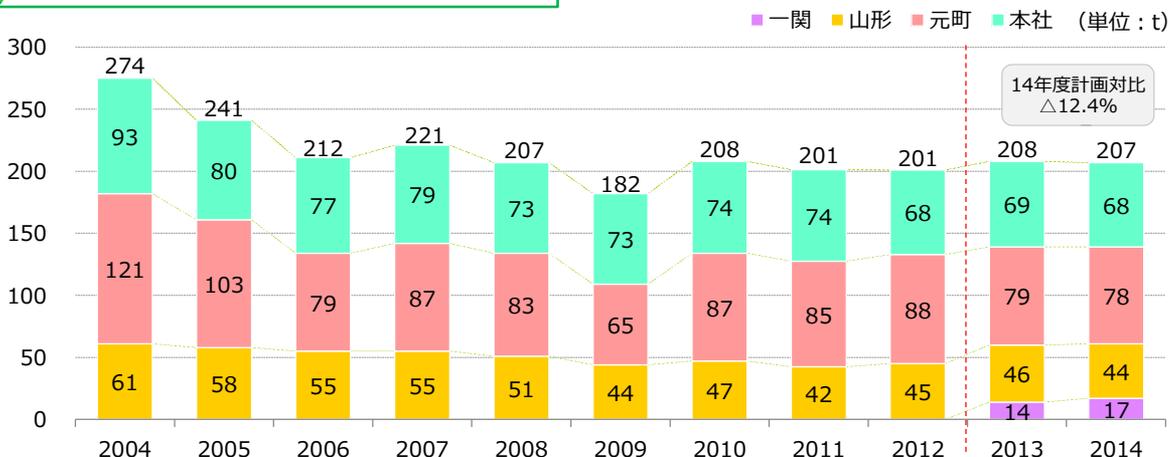
7

地球温暖化ガスの排出削減

当社は、事業活動によって生じるあらゆる環境負荷の低減に努めています。特に地球温暖化ガスは温暖化の主因とされており、世界的にも削減が求められている状況です。当社でも改善目標に設定しており、尚一層の削減を図るべく取り組んでいます。2014年度の二酸化炭素の排出量は207 t であり、計画対比で12.4%の削減が図られました。
 ※2013年度からは管理サイトが増え、排出量の算出方法も見直しを行っています。



地球温暖化ガスの排出削減推移



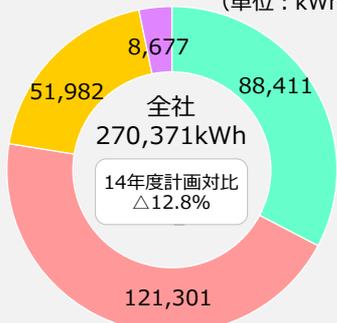
個別のエネルギー使用の内訳

エネルギー源ごとでは計画対比で、電気使用量12.8%減、灯油使用量2.6%減、ガソリン使用量10.4%減となりました。節電アクションやエコドライブの取り組みの継続、

ハイブリッド等の低燃費車への切り替えも積極的に推進しています。電気や灯油は気候に左右される部分もありますが、今後もインフラの整備を含め、削減への取り組みを進めてまいります。

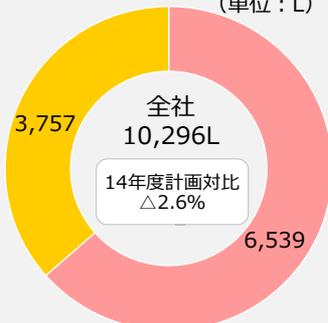
電気使用量の削減

(単位: kWh)



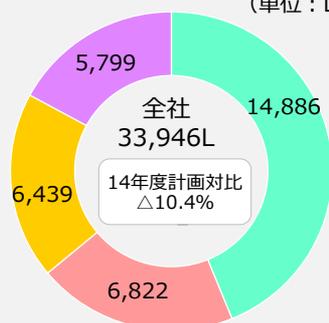
灯油使用量の削減

(単位: L)



ガソリン使用量の削減

(単位: L)



2015年7月に社員への意識調査を行いました。会社での活動が家庭へも広がりを見せていることが分かりました。

1. 感心のある環境問題や環境活動



地球温暖化 ... 62名 53%



**水の汚れ
空気の汚れ
ごみリサイクル** ... 41名 35%



緑の減少 ... 34名 29%

2. 環境に優しい生活をするために実行していること



**電気・ガス・水の節約
ゴミの分別** ... 81名 70%



家電を省エネタイプへ ... 47名 41%



車を控えエコドライブ ... 43名 37%

8

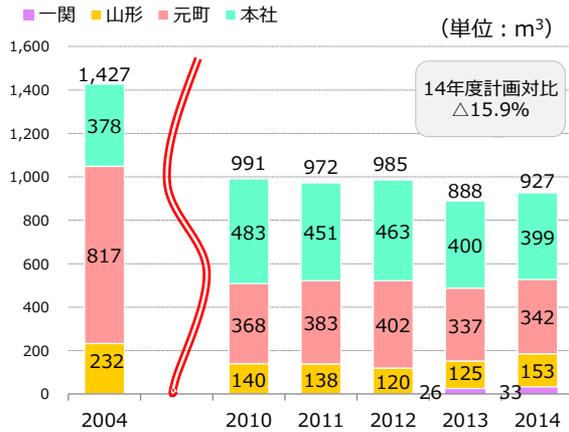
その他の環境負荷低減活動



省資源活動

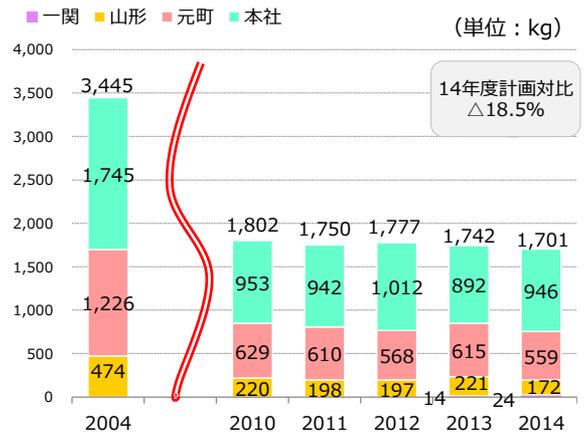
節水活動の推進

2014年度の水道使用量は927m³で、計画対比15.9%減となりました。当社での水の用途はほとんど生活系であるため、漏水チェック等を行い、削減に努めています。



紙資源の削減

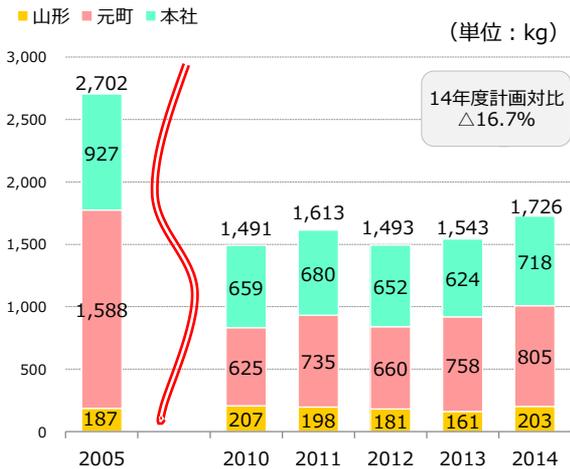
2014年度のコピー用紙等の紙購入量は1,701kgであり、計画対比18.5%の削減となりました。電子化や裏紙の使用は定着していますが、僅かながら減少傾向で推移しています。



廃棄物の排出削減

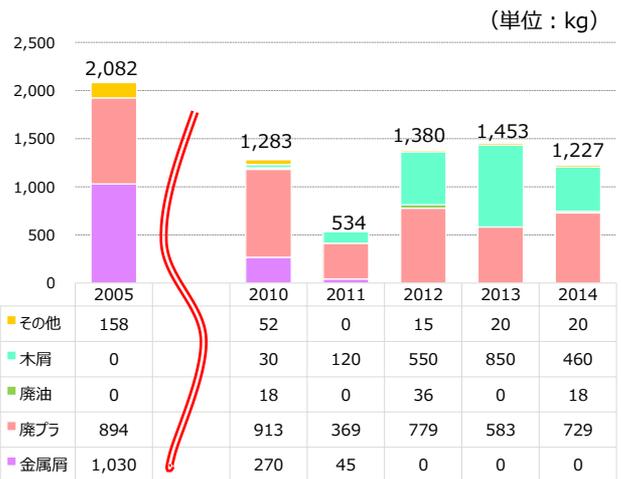
一般廃棄物

2014年度の一般廃棄物排出量は1,726kgとなり、計画対比16.7%減となりました。排出量の増加は生産活動の状況が反映されていますが、計画値以内となりました。



産業廃棄物

2014年度の産業廃棄物の排出量は1,227kgでした。金属屑関係の全リサイクル化は継続しており、会社全体としてゼロエミッションに取り組んでいます。



※2014年度実績は2014年4月～2015年3月排出量をマニフェスト管理状況として自治体に届けたもの

9

環境教育

当社は、年度環境教育訓練計画のもと種々の内容の教育を行っています。

■ 環境教育の実施

教育名	実施部門	実施日	受講者数
経営層・幹部教育	業務管理課	全社 7月29,31日	4名
管理職・一般社員教育	業務管理課 (推進責任者)	本社工場 7月29日 元町工場 7月31日 山形工場 7月31日 一関SC 7月28日	113名
新入社員教育	業務管理課	全社 4月9日	4名
専門分野別教育			
エアコン点検管理者教育	業務管理課	全社 3月17,19日	4名
灯油管理者教育		元町工場 5月15日	1名
内部環境監査員フォローアップ教育	業務管理課	全社 8月12日	7名

・上表において、各工場の対象者に対して一括して実施したものを「全社」としました

2014年7月 階層別一般教育

前年度の環境活動の結果と共に今年度の活動内容を全社員に理解してもらうこと、及び顧客の要求事項等の周知を目的として毎年7月に定期的に行っています。



本社

2014年8月 内部環境監査員フォローアップ教育

内部環境監査の質の向上及び監査レベルのアップを目的として、毎年内部監査実施前にフォローアップ教育を行っています。



2015年3,5月 専門教育 エアコン点検管理者教育/灯油管理者教育

フロン排出抑制法への対応と、新たに任命された元町工場の灯油管理者を対象とした教育を行いました。

エアコン点検管理者教育→



←灯油管理者教育

2015年4月 新入社員教育

2015年4月に新入社員4名を対象として、当社の品質・環境のISOの取り組みや活動について説明を行いました。



当社は、3つの柱からなる監査体系をもって環境マネジメントシステムの維持・向上を図っています。

■ 監査体系

監査の種類	監査の内容	実施
ISO14001更新審査	外部審査機関による ISO14001更新審査	年1回
内部環境監査	当社認定監査員によるパフォーマンスを含む ISO14001適合監査（全職場）	年1回
環境管理責任者パトロール	環境管理責任者を隊長とする環境、品質、 安全衛生を含めての総合監査	年1回

2014年
10月

ISO14001更新審査

2014年10月に受審した更新審査では不適合が1件ありましたが、是正を行い認証更新を行っています。また、観察事項やアドバイスに関しても改善に結び付けるために対応しました。



トップインタビュー風景



現場審査(本社)

2014年
8月

内部環境監査

2014年8月に実施した内部環境監査では不適合なし、アドバイス18件の指摘がありました。アドバイスは9月中に是正、改善を終えました。



一関

2014年
10月

環境管理責任者 巡回パトロール

2014年10月に行った環境管理責任者主催のパトロールでは全ての拠点を取り、7件の指摘がありました。当月中に改善をしています。



山形

■ 緊急対応訓練

当社では、敷地外に環境汚染を及ぼす可能性がある要因として灯油の漏出事故を掲げています。今年度も給油の際の漏出事故を想定して緊急対応訓練を行いました。



元町



山形

■ 廃棄物収集運搬・処理業者現地確認

当社では、委託している産業廃棄物収集運搬業者及び処理業者、またリサイクル業者を計画的に訪問し、保管状況、処理状況、法対応状況等の適切性を確認しています。



廃棄物処分場A



リサイクル業者B

■ 法遵守及び苦情への対応

当社は、創立以来環境関連法の違反はありません。又、行政からの指導並びに地域住民からの苦情もありませんでした。

■ 当社に適用される環境法規制等

当社は、各工場において適用される環境法規制等についてリストを作成し、定期的に法規制遵守状況を確認しています。

環境法規制等一覧

大気汚染防止法
水質汚濁防止法
浄化槽法
省エネ法
廃棄物処理法

家電リサイクル法
建設リサイクル法
労働安全衛生法
(鉛則、有機則)
消防法
毒物及び劇物取締法

フロン排出抑制法
自動車リサイクル法
宮城県公害防止条例
山形県環境保全条例
岩手県環境保全条例

仙台市公害防止条例
山形市環境条例
一関市環境条例
仙台市火災予防条例
山形市火災予防条例
一関市火災予防条例

(努力義務は除く)

環境コミュニケーション

当社は、継続してステークホルダーの方々に環境に関わる情報を発信しています。今年度も引き続き社外に向けては凌和電子ホームページ及び環境・安全報告書での情報発信、また社内向けには環境ニュース(毎月発行)、環境ニュース特集号(エコ生活情報)を発行しました。

■ 当社のステークホルダー



■ 情報発信

環境・安全報告書

当社の環境活動を広く知ってもらうことを目的として環境・安全報告書を発行しています。今回は第10回目となります。

環境ニュース(エコ生活情報)

環境ニュースは、社員への情報提供として最も効果的な方法として、月1回の発行を継続しています。

社内イントラネット、掲示板

社内イントラネットに環境のコーナーを設け、環境規定類、帳票類、環境活動実績、環境情報、顧客の要求事項、環境に関わる議事録等を開示しています。

ホームページ

当社のホームページに環境報告書や環境コミュニケーション情報を開示しています。

■ 地域、行政活動への参加、協力

Fun to Shareへの参加

当社は地球温暖化防止のための国民運動であるチャレンジ25キャンペーンに賛同・登録を行っていましたが、キャンペーンのリニューアルに伴い移行・登録を行いました。

エコにこオフィス

当社は環境配慮型事業所の認定更新を受け、継続してグリーン購入やごみの減量等を行っています。

クールビズ・ウォームビズ活動への参加

当社は2006年より継続してクールビズやウォームビズに協力しています。社員がバッジをつけたり、ポスターを掲示する等、社内外への啓蒙を含め節電を行っています。

エコドライバープロジェクトへの参加

当社はドライバーのマナーアップとエコドライブを推進するプロジェクトに賛同しています。



凌和電子ホームページ



環境ニュース



当社での賛同・登録キャンペーン

地域貢献・工場独自の活動

当社は、活動の更なる活性化と工場の取り組みに一層の自主性を持たせることを目的として工場独自目標を増やし、活動しています。各工場で特色のある活動を展開しています。



本社・本社工場

本社・本社工場では、仙台市と連携した活動、「仙台まち美化プロジェクト」「エコにこオフィス」「仙台・みやぎクールビズ宣言」に登録し、活動を推進しています。また、4年前から始めたエコキャップ運動

に加え、省エネパトロールとして熱画像カメラを使用した工場内パトロールを実施しました。配線に熱を持った危険箇所はないかチェックを行い、該当部署には改善をしてもらいました。

省エネパトロール

工場内のたこ足配線や非効率的な環境、危険箇所のチェックを行いました。見た目だけでは分からない熱のチェックも行い、改善活動をしました。



活動の様子
(熱画像カメラの写真)

工場緑化活動

2014年度は玄関脇のスペースで緑化活動を行いました。当社へ訪問する取引先の方や、通行人が足を止めて楽しむこともあります。ロゴを入れた木箱は梱包材を再利用しています。



社員玄関横のスペース
(購買管理)



元町工場

元町工場は仙台の工業団地にある、主に製造部隊が所属する工場です。2014年度は従来から実施している団地組合での清掃活動や献血活動に加え、協力会社のRoHS規制対応体制の構築

に取り組みました。ますます厳しくなる有害物質不使用要求に向けて確実に取り組んでいきます。その他エコキャップ運動や工場緑化も引き続き推進しています。

献血活動への参加

団地組合での活動として定着した献血活動。中々自分から献血ルームへ足を向けることがなかった社員にも良いきっかけとなっています。



献血の様子

団地内清掃

雑草が伸びる暑い時期には、ゴミ拾いに加えて草取りも実施しています。工場敷地内の他、共用駐車場も行い、気持ちよく使用できるよう努めています。



活動の様子

山形工場

山形工場では、製品製作時の手直し及び再製作率の低減を目標に、業務改善に取り組みました。ミスの原因を分析し、品質・環境両面からの作業向上を目指します。その他、地域清掃活動や

エコキャップ・プラタブ回収運動、インターンシップ等の社会貢献を行っています。これからも地域社会と共に発展していく企業であるように努力していきます。

地域清掃活動

地域貢献の一環として、年2回の広域清掃を行っています。



活動の様子

インターンシップの受入

年2回インターンシップを受け入れ、学生の職場体験を支援しています。仕事の心構え等、社員が指導を行います。



社員による指導の様子

一関システムセンター

一関システムセンターは2013年度から当社のサイトとして活動を開始した小規模な事業所です。

他サイトと同様に周辺美化活動やエコキャップ運動に加え、業務効率の改善に取り組みました。

周辺美化活動

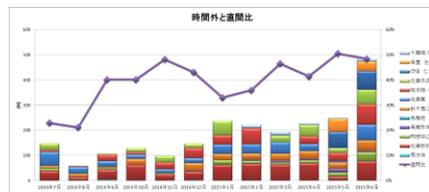
年2回の市の一斉清掃に合わせて、工場周辺美化活動を行っています。



清掃活動の様子

工数削減による付加価値の向上

間接工数と残業時間を減らすことにより、付加価値の向上を目指す活動を実施しました。



課員の状況推移グラフ



VOICE

● 資材購買・園芸部結成

本社工場の緑化活動は社員が持ってきたプチトマトをきっかけに始まりました。毎朝水やりをして綺麗に咲いた花は、通りがかる子供さんがよく足を止めて見てくれます。そこでコミュニケーションが生まれる事も楽しみの1つです。



業務管理課購買管理
● 貝山 公弥 ●

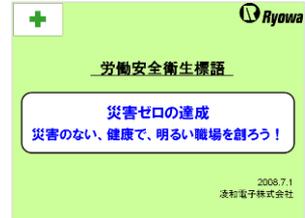


生産管理課
● 千葉 洋一 ●

● 工業団地を綺麗に

元町工場では全員参加で清掃活動を行っています。共用駐車場も掃除をしていた所、差し入れを頂いたこともあります。工業団地という環境の中、率先して動くよう心掛けて組合の皆様と綺麗な環境を目指していきたいと思っています。

当社は、[災害ゼロの達成(災害のない、健康で、明るい職場を創ろう)] をモットーに安全衛生活動計画を策定し、管理活動に取り組んでいます。2013年度からは凌和電子事業継続計画(BCP)の運用を開始し、東日本大震災を教訓とした危機管理に努めてまいります。



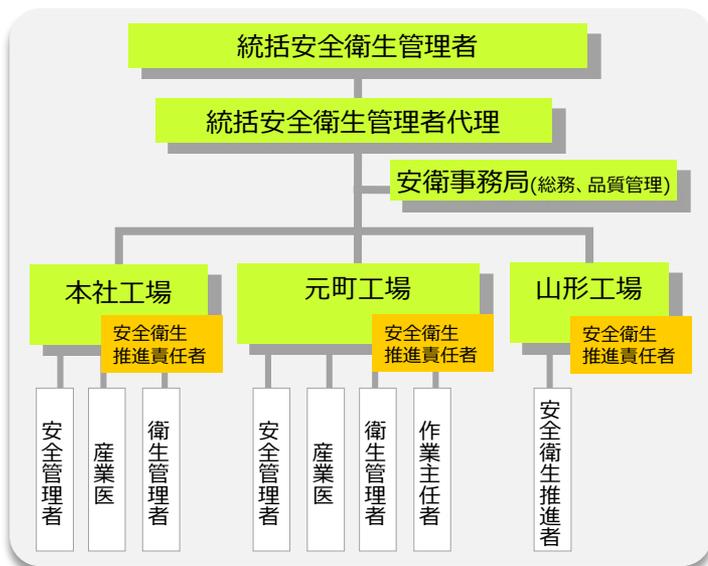
■ 安全衛生活動計画と実績

2014年度の活動計画に基づき活動の展開を図りました。全て計画通り実施しています。

重点実施項目	主な実施内容	実績評価
安全衛生管理体制の確立	組織体制見直し(管理組織・委員会組織)	○
	安全衛生計画の作成	○
	安全衛生委員会の開催	○
安全衛生意識の啓発・教育	安全衛生教育	○
	消防訓練の実施	○
健康維持・増進活動	健康診断の実施、受診の徹底	○
職場の作業環境整備	危険性・有害性の調査	○
	安全パトロールの実施	○

■ 安全衛生管理体制

社長を安全衛生管理統括責任者とし、工場毎に推進責任者及び法定管理者を定めています。

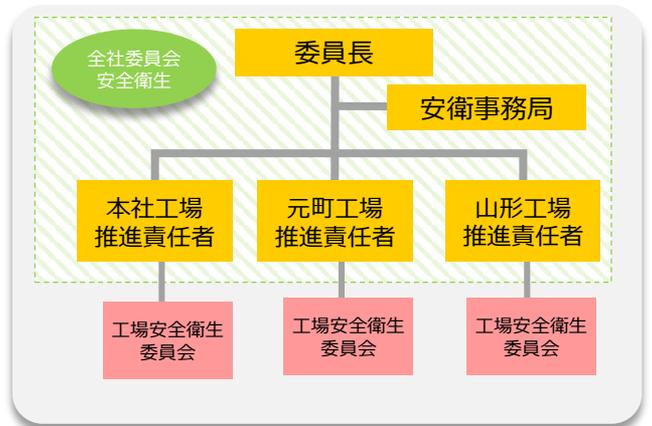


※一関システムセンターは小規模事業所の為対象外としています。

■ 安全衛生委員会組織

全社及び各工場の安全衛生委員会組織に基づき、全社は年1回、工場は毎月安全衛生委員会を開催しています。

工場の委員会では現場からの様々な意見を吸い上げ、改善を図ることにより良い職場環境を目指しています。



■ 安全教育

当社は、毎年1回全社員を対象に安全衛生教育を実施しています。



山形

■ 無災害記録の継続

当社は、中小企業無災害記録証授与制度を利用し、無災害記録の継続を目指しています。2014年度は本社工場で進歩賞を受賞しました。



※記録は6月末(期末)時点の累積日数です。
※元町工場では休業災害発生のため、累積396日となっています。

■ 健康診断

当社は、毎年定期健康診断、生活習慣予防診断、特殊健康診断(鉛、VDT)を実施しています。

2014年度の定期健康診断において未受診者はありませんでした。今後も100%継続を目指します。

工場	定期健康診断受診率	備考
本社	100%	受診者44名/対象者44名
元町	100%	受診者40名/対象者40名
山形	100%	受診者25名/対象者25名
一関	100%	受診者5名/対象者5名

■ 地震対策

当社は、東日本大震災の経験を踏まえ、各工場で地震対策を進めています。もしもの時に備え、被害を最小限に食い止めることが大切と認識しています。



落下防止



サーバー転倒防止

■ 防災訓練

工場ごとに火災や地震を想定した訓練を実施しています。2014年度は実際に消防署へ通報する訓練や、AED講習等を行いました。また、緊急時連絡網を使った安否確認テストも実施しています。

本社



避難訓練



消火訓練

元町



通報訓練



点呼・報告

山形



避難訓練



AED講習

社名 凌和電子株式会社
 創立 昭和47年7月28日
 資本金 7000万円
 役員 代表取締役社長 安藤 仁司
 取締役会長 安藤 正如
 専務取締役 中島 正美
 取締役 川田 智
 (2015年9月1日現在)

事業内容 計測/検査器設計製作
 計測/検査システム設計製作
 画像検査/処理システム設計製作
 データ収集/管理システム設計製作
 磁気特性計測システム設計製作
 各種プリント基板設計製作
 各種アセンブリ(試作、量産)
 リペア&メンテナンス

沿革 1972 (S47) 凌和電子株式会社設立(仙台市舟丁)
 1989 (H 1) 仙台市鶴代町に東部工場開設
 1999 (H11) 山形市高原町に山形工場を建設
 2000 (H12) 仙台市若林区六丁の目元町に元町工場を開設
 2001 (H13) ISO9001:1994認証取得
 2006 (H18) ISO14001:2004認証取得
 2006 (H18) 東部工場を元町工場に併合
 2009 (H21) 株式会社サンユー技研をM&A
 2012 (H24) 一関市狐禅寺に一関システムセンター開設
 2013 (H25) 一関システムセンターISO9001、14001拡張審査受審(認証取得)

所在地

一関システムセンター
 岩手県一関市狐禅寺



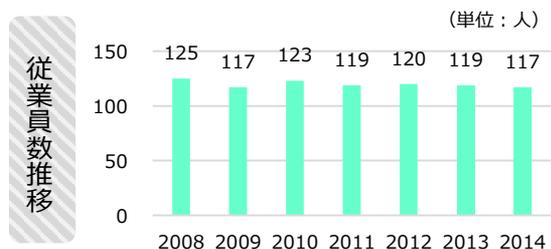
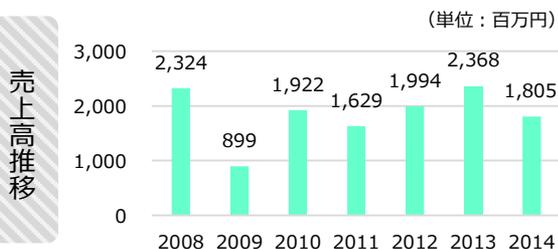
山形工場
 山形県山形市高原町



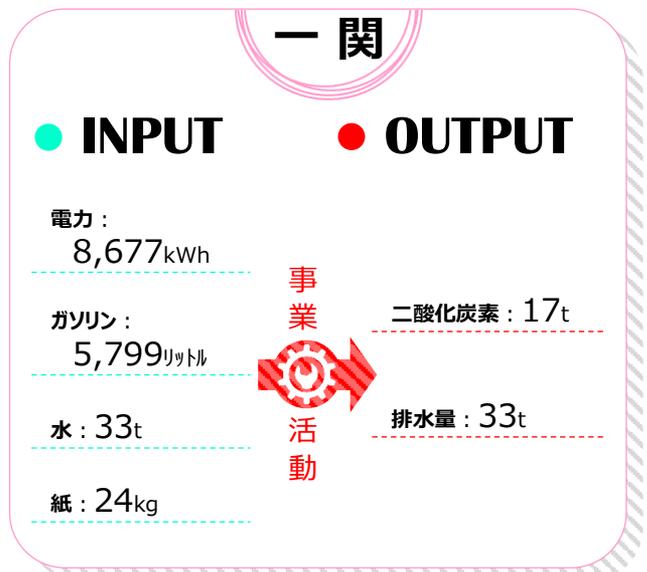
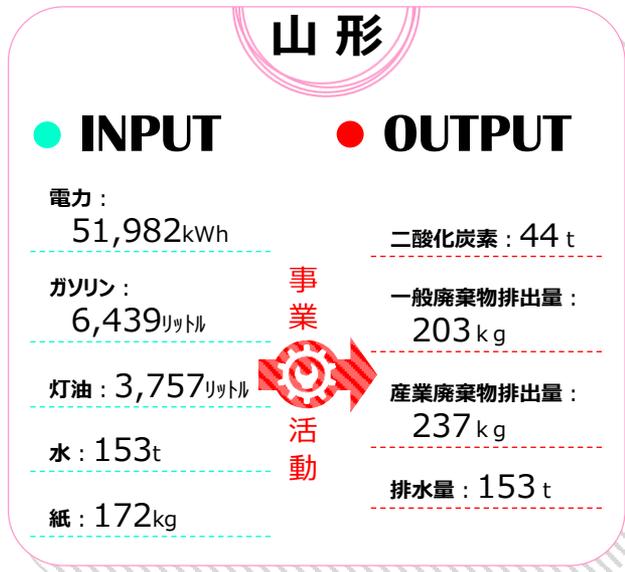
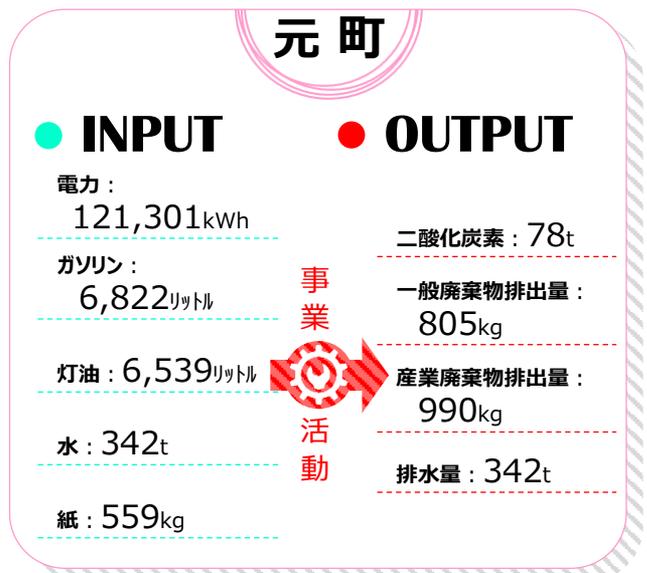
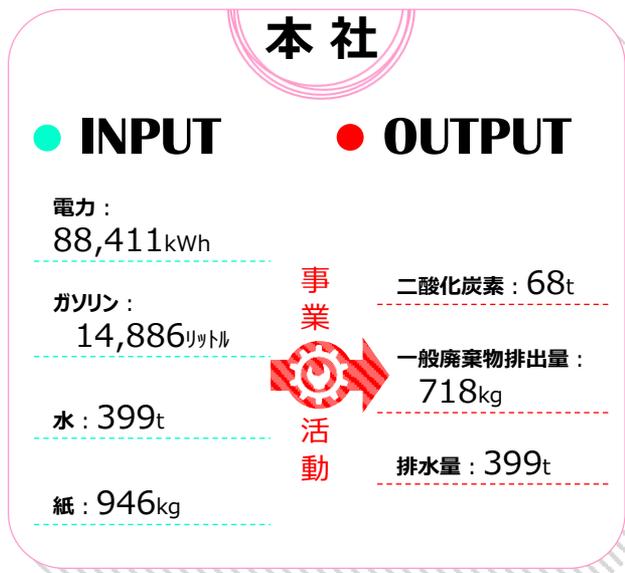
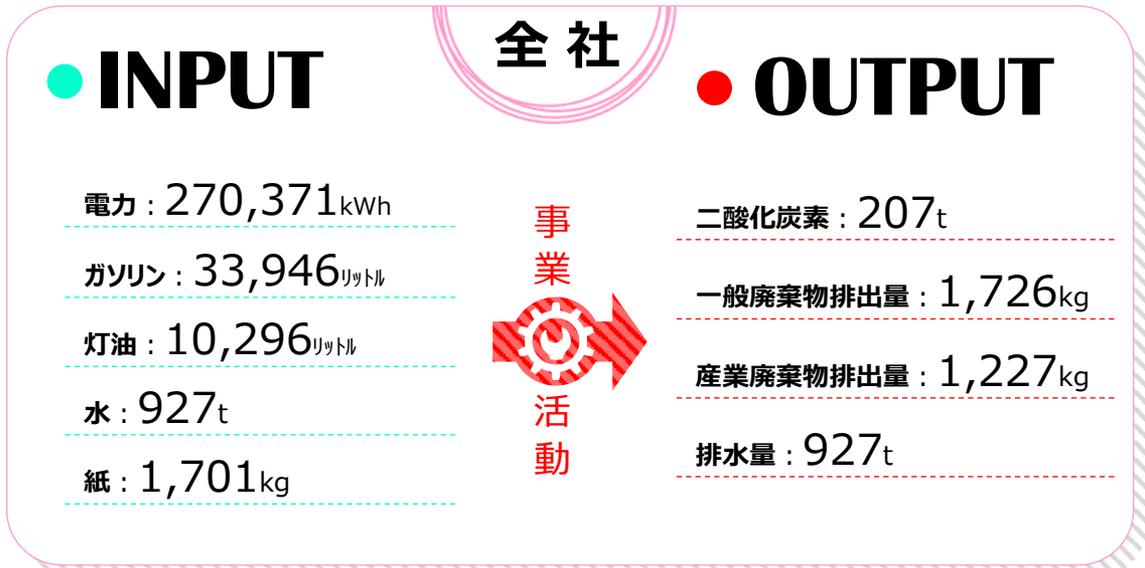
本社・本社工場
 仙台市若林区南材木町



元町工場
 仙台市若林区六丁の目



環境負荷マスマランス





凌和電子株式会社

〒984-0805

宮城県仙台市若林区南材木町48番地

URL : <http://www.ryowa-electronics.co.jp/>

お問い合わせ：業務管理課（飯田・永峯）

TEL:022-266-4188 FAX:022-268-1906

発行：2015年9月 次回発行予定：2016年9月